

百人一首①

名前

実施日 /

百人一首に慣れ親しもう。

百人一首は、五・七・五・七・七のリズムの歌を百首（百個）集めたものだよ。江戸時代から、かるた遊びで人気だったよ。君も覚えてみよう。



あま はら かすが
天の原 かりさけみれば 春日なる

みかさ やま いつき あべのなかまろ
三笠の山に出でし月かも (安倍仲麿)

意味： 大空をはるかに見上げると、この月は春日の三笠山に出たあの月なのだ。



この歌を作った安倍仲麿は仕事で中国に渡りました。昔は海を渡るのが大変で日本に帰れなくなっていました。そんな時、中国から月を見て「ああ、故郷で見た月だ...。」と日本を想って歌ったそうです。悲しい気持ちが伝わってきますね。

【歌をなぞろう。書いてみよう。声に出して読んでみよう。】

上の句	あまはら かりさけみれば 春日なる
下の句	三笠の山に出でし月かも

上の句
下の句

【問題】 次の (A) (B) に入る言葉をア～オの語群から選んで書こう。



天の原かりさけみれば(A)日なる 三(B)の山に出でし月かも

ア、月 イ、笠 ウ、火 エ、空 オ、春

答え	A	B

百人一首②

名前

百人一首の読み方を覚えよう。

百人一首には、恋の歌がたくさんあるよ。
今回は男性の恋の歌を紹介するよ。



せ いわ たきがわ
瀬をはやみ 岩にせかるる 滝川の

すえ あ おも すとくいん
われても末に 逢わむとぞ思ふ (崇徳院)

意味：浅瀬（水）の流れがはやいので、岩にぶつかって水が二つに分かれてもあとでひとつになるように、別れてもまたきこ逢おうと思う。



この歌を作った崇徳院は、政治の世界で弟と対立して、遠いところに行かされました。遠いところに行っても、水の流れのように好きな人とまた会いたい気持ちを歌いました。この歌には、歴史的かなづかいという「今と違う読み方をするひらがな」があるよ。『お→ん』『ふ→う』と、読むことを覚えよう。

【歌をなぞろう。書いてみよう。声に出して読んでみよう。】

上の句	瀬をはやみ 岩にせかるる 滝川の
下の句	われても末に 逢わむとぞ思ふ

上の句
下の句

【問題】次の（A）（B）の読み方を書こう。

瀬をはやみ 岩にせかるる 滝川の
われても末に 逢わ(Aむ)とぞ思(Bふ)



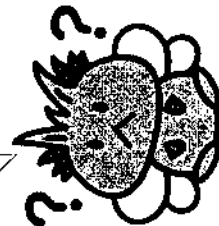
答え	A	B
----	---	---

百人一首③

名前

百人一首の歌の情景を感じ取ろう。

百人一首のリズムには、慣れてきたかな。
今回は季節を歌ったものを紹介するよ。



おくやま もみぢ なしか
奥山に紅葉ふみわけ 鳴く鹿の

こえき あき さるまるのたい
声聞くときぞ 秋はかなしき (猿丸大夫)

意味：人が住んでいるところからはなれた奥深い山で、紅葉をふみわけて鳴く鹿の声を聞くとときぞ、秋は心にしみるほど悲しいものだ。



この歌を作った猿丸大夫は、かなり昔の人でいつ生まれていつ亡くなったのか謎の人物です。でも歌の名人に選ばれており、視覚(目で見えた秋の色)と聴覚(秋の鹿の鳴き声)で悲しい秋の様子を上手に歌にしているよ。今回は漢字に気を付けてしっかりと書こう。
『奥』『鹿』は書き方に注意、『紅葉』は「もみぢ」と読むよ。

【歌をなぞろう。書いてみよう。声に出して読んでみよう。】

上の句	奥山に紅葉ふみわけ 鳴く鹿の
下の句	声聞くときぞ 秋はかなしき

上の句
下の句

【問題】 次の (A) (B) に入る言葉をア～オの語群から選んで書こう。

奥山に 紅葉ふみわけ 鳴く(A)の (B)聞くときぞ 秋はかなしき



ア、声 イ、馬 ウ、鳥 エ、鹿 オ、歌

答え	A	B

百人一首 確認テスト

名前

百人一首を覚えよう。

【問題】 次の歌の「上の句」と「下の句」が合うように線でつなごう。

天の原ふりさけみれば春日なる

われても末に逢わおとを思ふ

わがみよにふるながめせしまに

瀬をはやみ 岩にせかるる滝川の

声聞くときぞ秋はかなしき

からくれなゐに水くくるとは

奥山に 紅葉ふみわけ鳴く鹿の

三笠の山に出でし月かも

をとめのすがたしばしとどめむ

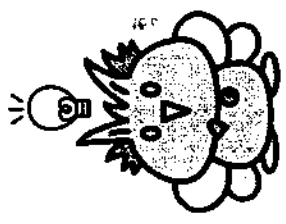
☆歌についてのお話をもとに覚えて、百人一首のかるたで遊んでみよう☆

〈学習のまとめ〉 「何問正解しましたか」 ○で囲もう。

3問



2問



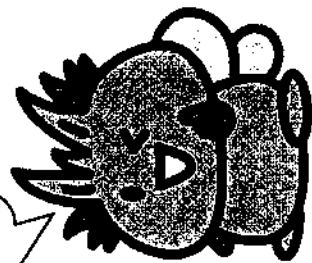
1問



0問



百人一首 おまけ



ばっちょー

百人一首のかるたをたくさんとるために、始めの一文字で下の句が分かる「おすめふさほせ」を覚えよう。

むらさめの

(と来たら...)

きりたちのぼるあきのゆふぐれ (を取る。)

すみのえの

ゆめのかよびぢひとめよくらお (を取る。)

めぐりあひて

くもがくれにしよはのつきかな (を取る。)

ふくからに

むぐやまがぜをあらしどふらお (を取る。)

ぢびしぢに

いづくもおなじあきのゆふぐれ (を取る。)

ほととぎす

ただありあけのつきぞのこれる (を取る。)

せをはやみ

われでもす急にあれおとぎおもふ(を取る。)



これで君も百人一首のスターに近付くね。